

学校訪問・地域交流  
(年次報告(平成23年度後期・24年度前期) V  
地域交流)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 案野, 香子, 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00007682">https://doi.org/10.14945/00007682</a>

## V 地 域 交 流

### 学校訪問・地域交流

案野 香子／袴田 麻里

#### 〈平成 23 年度後期〉

11月12日（土）座禅体験・駿府歴史巡り

静岡市の吐月峰柴屋寺において、静岡市の青少年とともに座禅の体験をした。その後、静岡の歴史に触れながら子どもたちとの交流を楽しんだ。

11月21日（月）長田南小学校での授業参加

留学生8名が静岡市立長田南小学校の英語の授業「英語で話そう」に参加し、小学生への英語教育に一役買った。

12月17日（土）闘茶体験

静岡市駿府公園紅葉山庭園において、留学生が静岡市の小中学生とともにお茶の香りや味から種類をあてる「闘茶」を体験した。

1月29日（日）中国春節祝賀会

NPO法人浜松日中文化交流会より、浜松キャンパスの中国人留学生や研究者、およびその家族約30名が招待され、ゲームや歌、楽器演奏などを通して、お互いの交流を深めた。

2月4日（土）餅つき

登呂遺跡にて、留学生が静岡市の青少年たちと一緒に餅つきを行った。その後、ついた餅をきなこ餅にして、日本の伝統的な食べ物を味わった。

2月14日（火）留学生と地域住民との交流会

静岡国際交流会館の留学生が周辺の地域住民を招待し、交流会を開催した。静岡大学の日本人学生も協力し、各国の料理を作って地域の方をもてなした。

2月26日（土）SAME「世界の言葉と文化を学ぼう」参加

静岡市国際交流協会（SAME）の「世界の言葉と文化を学ぼう」にナイジェリア、中国、タイの留学生が講師として参加し、母国の紹介を行った。

#### 〈平成 24 年度前期〉

7月7日（土）地引網（三保）に参加

三保で行われた地引網に、本学留学生10名が参加し、地域の児童と交流を行った。

8月26日(日) つま恋レクリエーション

浜松キャンパスの留学生およびその家族約40名が榛葉鉄工(株)よりつま恋(ヤマハリゾート)に招待された。浅利副学長夫妻も参加し、留学生は、ミニ運動会やレクリエーションを通して、同社社長や社員との親交を深めた。

## ホームステイプログラム

袴田 麻里

平成23年度も、一般の日本人家庭にホームステイする機会を提供することで、留学生が日本の生活様式や習慣、文化を体験することを目的として、浜松国際交流教会(HICE)と共同で11月18日から20日にかけて実施され、9名(中国4、韓国2、マレーシア1、スリランカ1、ベトナム1)が参加した。

国際交流センターは、ホームステイを希望する留学生を募集、申込用紙をHICEへ参加費3,000円(保険料、ホストファミリー交通費、HCE事務手数料)を添えて送付、ホームステイに関する指導助言し、HICEは、ホームステイボランティア登録者よりホストファミリーを募集、ホストファミリーへ説明会を行なった。

感想文を読むと、日本語能力が比較的高い留学生が参加したためか、各家庭でさまざまな形で交流し、貴重な時間を過ごしたことがうかがわれる。受け入れてくださったホストファミリーの皆様に深く感謝したい。

浜松キャンパスには学位取得目的の留学生が多く、長期的に浜松市に在住するケースが多い。ホームステイ後も交流が続いている留学生もおり、当初の目的である地域住民としての留学生育成の第一歩となった。

## 全員参加型討論会

「今までと今から～SHIZUOKAと私たち～(話っ、輪っ、和っ! 2011)」

袴田 麻里

23年度は静岡県留学生等交流推進協議会の単独企画として、静岡県留学生支援ネットワーク、静岡県国際交流協会と協力しながらの実施となった。6月に留学生4名と日本人学生14人で実行委員会を結成、静岡大学国際交流センター教員とともに準備・運営を行なった。

昨年実施して非常に有益だった県内訪問を今回も実施した。実行委員が4事業所と4名の方にお話をうかがい、12月のグループ討論内容を考えるヒントを得ることができた。グループ討論の内容に合わせた訪問先探し、訪問先へのアポイントメント取り、得た情報の取捨選択などは、実行委員の学生にとって大学外で適切にコミュニケーションを図るよい経験になったと思う。

12月17日、18日には、浜松市かわな野外活動センターに実行委員18名に加え、留学生38名と日本人学生23名の参加者、9名のアドバイザーの先生方が集まり、グループ討論、

レクリエーション、国指定重要無形民俗文化財ひよんどり鑑賞、全体会を通して、大いに語り笑い合った。

今回の特徴は、参加者に留学生が多かったことである。また、浜松市郊外での開催であったにもかかわらず、富士常葉大学国際交流室長の中村聰先生にはアドバイザーを務めていただき、三島市の日本大学から参加の留学生もいた。これまで県東部からの参加はほとんどなかったのだが、今回東部から参加者を迎えたことで、今後は東部の大学からも参加が期待される。

平成14年度から始まった「話っ、輪っ、和っ！」は、今回をもって10回目の開催となった。この事業を始めた時には、10回も続けることができるとは思いもしなかった。10回を迎えられたことは夢のようである。アドバイザーの先生方、学生の訪問を受入れてくださった企業や地域の皆様、歴代の実行委員、平成23年の実行委員、この事業を支えてくださったすべての皆様に心から感謝するとともに、今後も「話っ、輪っ、和っ！」が静岡県内の国際交流推進に貢献するよう努力したいと考えている。